

令和元年6月20日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H05681

研究課題名(和文) ラシード・ウッディーン『歴史集成』写本のミニアチュールの総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on Miniatures in the Rashid al-Din, Jami' al-Tawarakh Manuscript

研究代表者

川本 正知 (Kawamoto, Masatomo)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任教授

研究者番号：30192553

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,700,000円

研究成果の概要(和文)：14世紀初頭ラシード・ウッディーンRashid al-Din (d.1318) が編纂し、イル・ハン国君主オルジェイトに献呈されたペルシア語の世界史『歴史集成』(Jami' al-Tawarikh)の原本には多くのミニアチュールが挿入されていたと推定される。それらのミニアチュールは、写本が書写されたそれぞれの時代、場所の文化背景の下につきつぎと模写されていった。

本研究では各国に所蔵される多くの『歴史集成』写本のミニアチュールをできる限り実見し画像その他のデジタルデータを収集し、各時代の写本に描かれているミニアチュールの比較研究によってモンゴル時代文化研究をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

欧米のモンゴル時代以降の西アジアの文化研究の中には必ず含まれている同時代に描かれたミニアチュールを利用した各地の宮廷文化研究は日本ではほとんど行われたことはない。我が国のミニアチュールによる研究の立ち遅れの原因は、文献資料としての「書物」以外の「物」すなわちミニアチュールを含むモンゴル時代以降の西アジアの歴史的遺産研究のための根本資料の蓄積が不足していることにある。また、それはモンゴル期以降の西アジア・インドのミニアチュールその他の優れた文化遺産に対する日本の学会および社会における認知度の低さによるものである。当研究は日本の総合的ミニアチュール研究の礎石となる研究である。

研究成果の概要(英文)：The original version of the Jami' al-Tawarikh (Compendium of Chronicles), the world history in Persian, which was compiled and presented to the eighth Ilkhanid ruler, Oljeitu, by Rashid al-Din (d.1318) in the early 14th century, was presumably furnished with a large number of miniature illustrations. The proposed research will make a new contribution to the conventionally underdeveloped cultural studies of the Mongol period through newly carrying out a comparison of miniatures in different manuscripts of the Jami' al-Tawarikh. This research project also aims to explore and bring together miniatures from numerous manuscripts of the Jami' al-Tawarikh being kept in different countries, to clarify whether each particular miniature was featured in the original version, reconstruct the work in its original form, and, based on this database and the reconstructed original version, to promote comprehensive studies on the miniatures.

研究分野：中央アジア史研究

キーワード：モンゴル帝国 ラシード・ウッディーン 『歴史集成』 写本 ミニアチュール イル・ハン朝 ティムール朝 ムガル朝

1. 研究開始当初の背景

14世紀初頭ラシード・ウッディーン Rashīd al-Dīn (d.1318) が編纂し、イル・ハン国君主オルジェイトに献呈されたペルシア語の世界史『歴史集成』(Jāmi' al-Tawārīkh) は、第1巻「モンゴル人の歴史」、第2巻「世界諸民族史」、第3巻「世界地誌」(未発見)から成っていたとされる。第1巻は13世紀初頭に勃興したモンゴル帝国およびモンゴル支配時代史研究の最も重要な歴史資料として19世紀以来使われ続けてきたが、日本では1980年代から第1巻「モンゴル人の歴史」の写本研究が盛んに行われるようになった。白岩一彦による個々の写本の文献学的研究[『集史』パリ写本(Supplément persan 1113)について]、『オリエント』34-1,1991以来の一連の研究]、宇野伸浩による写本系統の研究[『集史』第1巻「モンゴル史」の校訂テキストをめぐる諸問題]、早稲田大学モンゴル研究所編『モンゴル史研究—現状と展望』(明石書店,2011他)などが日本の『歴史集成』写本研究の高い水準を支えてきた。また、2005年以降、イランにおいてMuhammad RawšanとMustafā Mūsawīによる第2巻「世界諸民族史」の校訂テキストの出版が進み、第1巻と合わせ考えることにより、『歴史集成』は世界初の「世界史」として注目されるようになった。そして、その流れは、詳細な写本研究による、本研究分担者大塚修の「第2巻は『オルジェイト史』(Tārīkh-i Ūljāytū)の著者アブー・アルカーシム・カーシャーニーAbū al-Qāsim Qāshānīが書いた世界史の『歴史精髓』(Zubdat al-Tawārīkh)をラシードが引き写したにすぎず、したがって第2巻の「真の著者」はカーシャーニーである」との「発見」につながった[「史上初の世界史家カーシャーニー—『集史』編纂に関する新見解—」、『西南アジア研究』80,2014]

一方、ラシード・ウッディーンの生涯、著作活動、彼がタブリーズに建設したラシード区における文化事業についての研究がSheila.S.Blair [“Patterns of Patronage and Production in Ilkhanid Iran: The Case of Rashīd al-Dīn” in *The Court of the Il-khan 1290-1340*, Oxford, 1994]、岩武昭男[「ラシード区ウクフ文書補遺写本作成指示書」関西学院大学東洋史研究室編『アジアの文化と社会』法律文化社,京都,1995他]などによって活発に行われ、写本研究を含めたその成果はイル・ハン国の文化史研究[Anna Akasoy, Charles Burnett and Yoeli-Tlalim eds. *Rashīd al-Dīn: Agent and Mediator of Cultural Exchanges in Ilkhanid Iran*, London, 2013]、東西にわたるモンゴル時代文化史研究[Linda Komaroff & Stefano Corboni eds., *The Legacy of Genghis Khan: Courtly Art and Culture in Western Asia, 1256-1353*, New York, 2002]などに取り入れられている。

しかし、欧米のモンゴル時代以降の西アジアの文化研究の中には必ずといってよいほど含まれている同時代に描かれたミニアチュールを利用したモンゴル時代宮廷文化研究は日本ではほとんど行われていない。論文も本研究分担者榎屋友子が、上記 *The Legacy of Genghis Khan: Courtly Art and Culture in Western Asia, 1256-1353* の第4章として書いた *Ilkhanid Courtly Life* があるのみである。欧米の主要な博物館は必ずイランやインドのミニアチュールのコレクションを持ち、ミニアチュール研究は西アジアおよびインドのイスラーム文化研究の本流である。我が国のミニアチュール研究の立ち遅れの原因は、文献資料としての「書物」以外の「物」すなわちミニアチュールを含むモンゴル時代以降の西アジアの歴史的遺産研究のための根本資料の蓄積が不足していることにある。また、それは、日本においても西アジア古代史研究いわゆるオリエント学が「物」の研究を中心に盛んに行われていることを思えば、明らかにモンゴル期以降の西アジア・インドのミニアチュールその他の優れた文化遺産に対する日本における認知度の低さによるものである。

2. 研究の目的

現存しているいくつかの15世紀以前に書写された『歴史集成』写本に残されているミニアチュールの共通性からみて、ラシード・ウッディーン『歴史集成』の原本には多くのミニアチュールが挿入されていたと推定される。本研究は日本においては不十分なモンゴル時代文化研究を『歴史集成』の諸写本に描かれているミニアチュールの比較により行う。調査・研究対象として『歴史集成』を選んだのは、その写本および編者ラシードに関しては上述のようなデータの蓄積が日本にもあるからである。それによってポスト・モンゴル時代歴史研究者やモンゴル時代を専門とはしない美術史研究者も『歴史集成』の内容、写本の所在地、写本の年代を比較的簡単に把握することが可能で、それぞれの専門性を生かしつつ共通の議論に速やかに参加することができるからである。

本研究は、各国に所蔵される『歴史集成』写本の写本そのものおよびミニアチュールをできる限り実見・調査し、デジタル・データを収集し、収集された諸写本のミニアチュールを対照して比較することにより、本文のどの部分にどのようなミニアチュールが挿入されていたかを確定し、原本の可能な限りの復元を行う。従来、原本のミニアチュールの状態はある程度は推定されていたが、それを確かな証拠に基づいて提示した研究はない。あるミニアチュールが原画にさかのぼることができるかどうかを対照・比較によってひとつひとつ確定する。たとえばある時代に書写された写本にのみ挿入されているミニアチュールであったとしても、その構図や彩色を精査することによってそれが原本にあったと判定することも期待できる。

『歴史集成』写本に含まれるミニアチュールの絵画表現をテキストの内容および同時代の他写本の表現と比較しながら、画家の絵画様式および作画態度の特徴を見出すことによって、ミ

ミニチュールの年代を特定するとともにそのミニチュールを含む写本の制作状況を明らかにする。そしてミニチュールを含む写本の制作状況を解説した文書データを蓄積することにより、各時代、各地域の写本が制作された歴史的環境や文化に関心を持つ歴史、美術史両分野の研究者が拠って立つことのできる信頼の置ける基本的文献データを提供する。

本研究の遂行によって蓄積されたデータは、次にミニチュール研究をその中に含む「物」研究としての写本研究の基礎資料となる。

3. 研究の方法

写本は校訂テキストのように言語情報の媒体としてのみ存在しているわけではなく、ミニチュールやカリグラフィーの「作品」としての「精巧さ」や「美しさ」などによって写本が作成された地域や時代の文化状況を伝えている。本研究では、文献研究と文化遺産としての「物」研究を組み合わせた総合的視点から一冊の本の写本をめぐる様々な現象・事象を眺める。「物」研究には個々の研究者が直接「物」自体を観察することが不可欠で、それなくしては「物」に関する文献の読解も表面的にとどまる。このような観点から具体化されたこの調査研究計画・方法の主眼は、自分の目で「物」を「見る」ことにあるので、原則として研究分担者全員が各国の図書館を訪れ一致協力して調査をおこなう。

本研究が対象とするミニチュール入りの『歴史集成』の諸写本は文化や歴史が異なる広範な諸地域で作成されさまざまな国の図書館に所蔵されている。本研究は、インド、イラン、トルコ、ヨーロッパの図書館を訪れ、挿絵として描かれたミニチュールをもつ『歴史集成』の写本を組織的に調査・収集する。最も重要な写本から実見・調査するよう平成2016年度はインド・ドイツ、2017年度トルコ・イラン、2018年度イギリス・フランスを調査し資料収集を行う。また、調査を行う前後に研究会と報告会を開催し、調査対象の事前の精査と調査結果確認を行うことにより全員の意思統一を図る。

4. 研究成果

当調査研究の成果は、研究代表者および分担者全員が執筆する英文の論文集としてまとめてエディンバラ大学出版会から出版することになった。2019年度中に出版予定で現在その編集を鋭意進めている。

以下にその論文集の書名と目次をあげる。1～9までの論文が具体的な研究成果である。また、この本に付けられる分担者大塚修による二つのアペンディクスすなわち『歴史集成』全写本目録と『歴史集成』写本全ミニチュール目録はここに英文で出版されることによって今後の写本研究に計り知れない恩恵を与えることになるであろう。

出版予定論文集の書名と目次

Manuscripts of the Jāmi' al-Tawārīkh by Rashīd al-Dīn Fazl Allāh Hamadānī

Edited by Masatomo Kawamoto

Contents

Introduction

“About our project”

Masatomo Kawamoto

“Studies on manuscripts of the Jāmi' al-Tawārīkh in Japan”

Nobuhiro Uno

Summary of Contents

Acknowledgement

I. The Jāmi' al-Tawārīkh and Its Manuscripts

1. “The Transmission and Reception of the Jāmi' al-Tawārīkh: From a History of the Mongols to a History of the World”

Osamu Otsuka

II. Manuscripts of Vol. 1 ‘History of the Mongols’ of the Jāmi' al-Tawārīkh

2. “Grouping of the Manuscripts of Vol. 1 ‘History of the Mongols’ of the Jāmi' al-Tawārīkh”

Nobuhiro Uno

3. “Miniatures of the Original Version of Vol. 1 ‘History of the Mongols’ of the Jāmi' al-Tawārīkh”

Masatomo Kawamoto

III. The Manuscript of Vol. 1 ‘History of the Mongols’ of the Jāmi' al-Tawārīkh in the Raza Library, Rampur

4. “Illustrations of the Rampur Manuscript: Their Origins and Influence”

Tomoko Masuya

5. “A Preliminary Analysis of the Yuan Palace Illustration of the Jāmi‘ al-Tawārīkh, MS. F1820 Preserved in the Raza Library, Rampur, India, Focusing on the Ceremonial Ax and the Figure Holding a Bird”

Koichi Matsuda

6. “Genealogical Analysis of the Manuscripts of Vol. 1 ‘History of the Mongols’ of the Jāmi‘ al-Tawārīkh including the Rampur Manuscript”

Nobuhiro Uno

IV. Manuscripts of Vol. 2 ‘The World History’ of the Jāmi‘ al-Tawārīkh

7. “The World History of the Jāmi‘ al-Tawārīkh Reconsidered”

Osamu Otsuka

8. “A textual Comparison of the Persian (Hazine 1654) and Arabic (Khalīlī 727) Versions of the Jāmi‘ al-Tawārīkh: History of India and Life of the Buddha”

Satoshi Ogura

V. From Our Research and Beyond

9. “The previously unknown chapter and accounts of the Rawḍāt al-Jannāt by Mu‘īn al-Dīn Isfizārī”

Masaki Sugiyama

Appendix 1: Surviving Manuscripts of the Jāmi‘ al-Tawārīkh, edited by Osamu Otsuka

Appendix 2: Surviving Illustrations of the Jāmi‘ al-Tawārīkh, edited by Osamu Otsuka

Bibliography edited by Osamu Otsuka

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

1. 川本正知、チャガタイ・ウルスとカラウナス=ニクダリヤーン----『歴史集成』「チャガタイ・ハン紀」の再検討---、査読有、『西南アジア研究』、No.86、2017、79-111

2. Tomoko MASUYA、 “Portraits of Chinese Emperors in the Jāmi‘ al-tawārīkh by Ilkhanid and Timurid Painters” 『美術史研究集刊 (Taida Journal of Art History)』、 査読有、 45 巻、 2018 : 109–158

3. Tomoko Masuya、 “Visualization of Texts: Scenes of Mourning in the Great Mongol Shāhnāma”、 査読有、 *Orient*、 52、 2017 : 5-20

4. Tomoko Masuya、 “Iranian Tiles from the Ilkhanid Period at Shangri La”、 査読有、 *Orientalia*、 47-8、 2016 : 76-83

5. Osamu OTSUKA、 “Qāshānī, the First World Historian: Research on His Uninvestigated Persian General History Zubdat al-Tawārīkh”、 *Studia Iranica*、 査読有、 47(1)、 2018 : 119-149

6. 大塚修、 『集史』 の伝承と受容の歴史：モンゴル史から世界史へ、 査読有、 『東洋史研究』、 75-2、 2016 : 347-312

〔学会発表〕(計 5 件)

1. 1. 発表者名：Osamu OTSUKA

2. 発表標題：The Flowering of Persian Literature under the Patronage of the Hazaraspid Dynasty: How did Local Rulers Legitimate Their Rule in the Late Ilkhanid Period?

3. 学会等名：International Conference "Kingship, Ideology, Discourse: Legitimacy of Islamicate Dynasties

4. 発表年月日：2018 年 12 月 15 日

5. 発表場所：Tokyo

2. 1. 発表者名：大塚修

2. 発表標題：人類の起源を求めて：前近代ムスリム知識人による諸民族の系譜の創造

3. 学会等名：2018 年度西洋史研究会大会

4. 発表年月日：2018 年 11 月 18 日

5. 発表場所：仙台

3. 1. 発表者名：大塚修
2. 発表標題：普遍史書としての『バナーカティール史』：『集史』の呪縛から離れて
3. 学会等名：オリエント学会第 60 回大会
4. 発表年月日：2018 年 10 月 14 日
5. 発表場所：京都
4. 1. 発表者名：大塚修
2. 発表標題：ペルシア語普遍史の伝承と受容の歴史：『集史』中心主義を超えて
3. 学会等名：白山史学会第 55 回大会
4. 発表年月日：2018 年 6 月 30 日
5. 発表場所：東京
5. 1. 発表者名：Osamu OTSUKA
2. 発表標題：Qāshānī and Rashīd al-Dīn: A New Perspective on Ilkhanid Historiography
3. 学会等名：Workshop: Dynamics in Middle Eastern Societies during the Mongol Period
4. 発表年月日：22, March, 2017
5. 発表場所：Institute for Advanced Studies on Asia (Tobunken), The University of Tokyo, Tokyo, Japan

〔図書〕(計 2 件)

1. 大塚修、『普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開』名古屋大学出版会、2017、456
2. 松田孝一、宇野伸浩、『中央ユーラシア史研究入門』山川出版社、2018、413

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：大塚修
ローマ字氏名：Osamu Otsuka
所属研究機関名：東京大学
部局名：大学院総合文化研究科・教養学部
職名：准教授
研究者番号(8桁)：00733007

研究分担者氏名：杉山雅樹
ローマ字氏名：Masaki Sugiyama
所属研究機関名：京都外国語大学
部局名：国際言語平和研究所
職名：嘱託研究員
研究者番号(8桁)：30773824

研究分担者氏名：小倉智史
ローマ字氏名：Satoshi Ogura
所属研究機関名：東京外国語大学所
部局名：アジア・アフリカ言語文化研究
職名：助教
研究者番号(8桁)：40768438

研究分担者氏名：榎屋友子
ローマ字氏名：Tomoko Masuya
所属研究機関名：東京大学
部局名：東洋文化研究所
職名：教授
研究者番号(8桁)：40300735

研究分担者氏名：松田孝一
ローマ字氏名：Koichi Matsuda
所属研究機関名：大阪国際大学

部局名：
職名：名誉教授
研究者番号（8桁）：70142304

研究分担者氏名：宇野伸浩
ローマ字氏名：Nobuhiro Uno
所属研究機関名：広島修道大学
部局名：国際コミュニティ学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：60310851

(2)研究協力者

研究協力者氏名：岩本 佳子
ローマ字氏名：Keiko Iwamoto

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。